
かほくがた

河北潟湖沼研究所通信 Vol.9 No.4



変わりつつある河北潟の風景

『河北潟研究奨励助成』の募集を開始

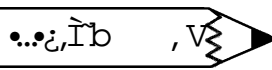
河北潟と周辺地域の将来を展望する上で、河北潟の自然再生と環境保全、干拓地の有効な利用は、ますます重要な課題となっています。自然と共存する永続的で豊かな河北潟地域を実現する上で、河北潟の自然や農業についての学術調査が欠かせません。

NPO法人河北潟湖沼研究所は、これまで約10年間の活動を通じて、河北潟地域の環境保全と自然再生、地域の歴史の掘り起こしと産業の活性化等の研究をおこなってきました。その成果は、機関誌「河北潟総合研究」計7巻や、パンフレット「河北潟自然再生構想」という形

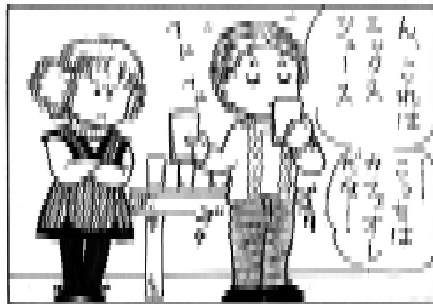
で発表してきました。しかしながら私たちの活動は、まだまだ不十分であり、今後さらに多様な調査・研究を進めていく必要があります。そのためには、私たちだけでなく、多くの方々に河北潟地域の研究に参加していただきたいと考えます。

そこで、河北潟湖沼研究所は、専門的知識を持った学生や研究者の方々の学術研究に対して助成をおこなうことにより、研究者のネットワークを広げるとともに、河北潟に関する基礎的学術資料の蓄積を図ることとしました。

(応募要項は4pをご覧ください)



生活・産業と水質



前回と前々回で、水質改善の手法としての自然再生の重要性と排水の処理技術についてご紹介しました。こうした、「技術」や「手法」は水質を改善する上では大変重要なものですが、水質の問題を考える上では、現在の社会のあり方、とくに産業や私たちの生活との関連性を避けることはできません。現在のような、大量生産・大量消費の社会の構造そのものが水質問題を引き起こしている本質的な原因であり、技術的な改善だけでは水質問題の根本的な解決はできません。とくに、産業や生活の結果ともいえるあらゆる排水が流れ込む河北潟のような下流域の水域においては、どのような技術を使っても、現在の社会のスタイルが変わらなければ、高度経済成長期以前の水質を取り戻すことはたいへん難しいものと思われます。

第4回で述べたとおり、栄養塩の循環を取り戻すことはとても大切なことですが、日々輸入される食糧や大量に製造される化学肥料が、過剰に生活や産業の中に添加されている状況の中では、循環できる量よりも一方的に排出される量が勝ってしまうのは火を見るよりも明らかです。またこうした状況を地球規模で見ると、日本のような一部の国や地域に、栄養塩が集中することが予想され、そのことにより、本来は人にとっての重要な資源であるはずの栄養塩類が、汚れとして人の生活を脅かすものとなっていきます。栄養塩の過剰な生産と供給の問題を解決しないかぎり、人類の将来は期待できません。まさに、人間の活動のあり方そのものが問われている時代であるということができます。

よく、水質問題に関連して私たちの生活スタイルの見直しが議論されます。たしかに私たちの一人一人の生活を改善することで、生活の中から流れ出る汚濁物質をある程度は抑えることも可能でしょう。しかし、個人生活のレベルで解消できることは、社会システムそのものがもたらしている問題と比べればわずかであり、これからは、社会レベルでの問題解決が必要であり、社会の仕組みや産業のあり

方そのものに注目していくことが求められます。未来の社会をどう変えていくのかといった提案は、行政機関や企業からはおこない難いものですが、市民やNPOからはさまざまな提案が生まれることが期待されます。

いろいろな意味で、河北潟の水は人の社会と暮らしを映す鏡です。あるいは未来を映し出す鏡かも知れません。私たちは河北潟の水面を見つめながら、じっくりと未来の人間のあり方を考えていくことが求められている気がします。

「水質の話」は今回で最終回となります。次回からは宮本真晴さんが連載します。

(文 高橋 久)

アンサンブル河北潟“Eco Ami”の活動を紹介します

アンサンブル河北潟“Eco Ami”(エコ・アーミ)は「食生活」や「地球環境」を題材にした「おはなし」と「ミニ・コンサート」をセットにして、出前講座を開催しています。Eco(エコ)はエコロジー、Ami(アーミ)は世界共通語のエスペラント語で愛情という意味です。

演奏者は、バイオリン、ピオラ、チェロ、コントラバスといった、弦楽器による演奏を楽しむ仲間、それぞれ職業は様々な仲間です。早春、小さい秋みつけた、エーデルワイスといった、自然の情景を歌った曲目を選び演奏しています。



者全員で話し合いました。



自分達の命に直結した「食」環境について考え、身体に良い食品を選ぶ目を日常的に親子で養うことは日常的にできます。「食材」「水」「空気」といった、生きるために必要不可欠な素材がどのような環境にあるのかを意識して考えることは、身近な地域環境、そして地球環境へ目を向けることに繋がっていけばと期待をします。

(大館 薫子)

活動は1995年以来、河北潟湖沼研究所シンポジウムでの演奏の他、河北潟共和国イベント、内灘町クラシックコンサート、金沢医科大学ふれあいタイム、老人ホーム慰問演奏、幼稚園での演奏等を行ってきました。

写真は平成15年9月に、金沢市立緑小学校のPTA主催による親子学習会です。「私たちの食と環境」というテーマで90分の会を開きました。緑小学校での活動は2年目ですが、この日は農薬、輸入品のポストハーベスト、食肉、養殖魚、食品添加物といった「食」環境と自分達の命、そして、私達の暮らす地球環境について、参加



(2003年の河北潟湖沼研究所シンポジウムでおこなわれたミニコンサート)

平成16年度河北潟研究奨励助成応募要項

(助成金の目的については1Pを参照下さい)

2004年3月5日

NPO法人河北潟湖沼研究所

【補助の対象】

助成の対象となる研究分野及び応募の資格は次のとおりです。

助成対象研究

- ・河北潟(干拓地を含む)及び周辺環境の自然環境を対象とする自然科学分野の研究
- ・河北潟干拓地の農業・酪農問題を対象とする社会、人文科学分野の研究
- ・河北潟地域の活性化に関する総合的研究

補助対象者

- ・大学に在籍する学生、大学院生
- ・大学や研究機関等に所属する教官、研究員
- ・その他、河北潟に関心のある研究者、住民等

【助成金の額等】

助成金の額

1件につき10万円を上限とします。

募集件数

3件

助成期間

平成16年6月～17年3月

補助対象経費

- ・河北潟までの往復交通費及び河北潟滞在中の宿泊費
- ・調査地までの移動や調査に必要な車輛、船舶等の借上料
- ・研究に必要な器具、備品や消耗品等

応募の方法

・次の書類を直接提出するか郵送してください。応募の締切は平成15年5月31日(消印有効)です。

・申請書(別記様式 - 河北潟湖沼研究所金沢事務局〒920-0051 金沢市二口町八58 tel076-261-6951まで請求してください。または、ホームページ<http://kahoku.soc.or.jp>よりダウンロードできます)

< 申請書の提出先 >

河北潟湖沼研究所本部

〒920-0267 内灘町大清台302

審査

有識者数人と研究所理事で構成する助成審査会が審査し6月末までに通知します。

報告書

事業終了後速やかに以下の書類を提出いただきます。

- ・研究報告書
- ・会計報告書

その他

- ・申請書の請求先と提出先が異なりますのでご注意ください。
- ・助成金の交付方法については助成決定後、担当者からご連絡いたします。

第35回河北潟自然観察会のお知らせ

今回は、久しぶりに特別編として里山の観察会を津幡町森林公園で開催します。春の里山はとっても活気にあふれています。ふだんの観察会ではあまり見かけない植物や動物をたくさんみることができると思います。同会場では、いしかわビオトープ交流会の観察会も予定されています。よろしければ、途中から合流して多くの方々と親睦を深めたいと思います。

日時 2004年4月4日(日) 午前9:00-

集合地 津幡町森林公園わくわく森林ハウス
駐車場前(津幡町)

内容 里山やため池の生物を中心に観察します。

*今回だけ集合場所が変わります。ご注意ください。

< 編集後記 >

3月は内業に追われ、なかなか外にでられませんでした。下旬に一度干拓地にあるビオトープ池に行くことができ、今年もアズマヒキガエルが産卵にきていたことがわかりました。水辺のヤナギはもう花が咲き、ヒバリの盛んなさえずり、春夏に盛んに聞かれるケリのケケケ...というけたたましい鳴き声も聞かれ、春の到来を感じることができました。(N)

「かほくがた」 VOL.9 NO.4

2004年3月28日発行

発行所 河北潟湖沼研究所友の会

〒920-0051 金沢市二口町八58

河北潟湖沼研究所金沢事務局内

TEL: 076-261-6951 FAX: 076-265-3435